

まちづくり ひろしま

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

第2号(平成24年11月15日)

読者数：304名(募集中)

メールアドレス：hirosima.idea.c@urban.jp

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二

配信元：広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで

□巻頭言

広島の平和都市・平和記念都市としての行方

広島諸事・地域再生研究所、元広島大学教授
石丸紀興

広島は被爆都市であり、戦後の復興計画によって復興を成し遂げたわけだが、平和都市あるいは平和記念都市として復興したとされることについては、その評価は様々である。かつて被爆後40年、50年のころは手放しでの復興礼賛が多かったように思われるが、最近ではいろいろと疑問符や反論が投げかけられたりするようになってきた。「ハードの復興はそれなりに進んだが、精神や文化の復興は取り残される結果となった」とか、「市民の多大な犠牲や負担の上によりやく復興したのだ」とか、さらには「アメリカの敷いたレールに乗って操作された平和都市としての復興であった」、「広島の平和都市としての復興は欺瞞である」とまで決めつけられる場合も出てきた。

もちろん様々な評価が存在することはよくあることだが、平和都市であることに強い疑問が投げかけられることには、広島に関わる者として無関心ではいられない。果たして平和都市としての復興は問題があったのだろうか、現実の平和都市としての復興過程ではない方法が存在したのだろうか、さらには復興した平和都市としての価値はどのようなものだろうか、等々自問自答すべきことは多い。

良く知られているように、1949(昭和24)年8月に新憲法95条に基づく最初の特別法として「広島平和記念都市建設法」が公布され、この法が広島の復興に大きな役割を果たした。他の戦災都市に比べて、広島は有利に復興事業と取り組んだことは疑いなく、財政的な援助だけでなく、全国からの精神的な支援も励ましになったのである。さらには外国からの物質的な援助が復興過程に果たした役割も無視しえないものであった。

この法の成立により住民の負担がより増大したという批判や、この法によって平和都市を売り物して復興を果たしたとか、平和記念都市としての復興はいまだ成し遂げていないとかの指摘も存在する中、ならば、平和都市あるいは平和記念都市として取り組むべき課題は何かを指摘し、取り組むべき今後の筋道を提示することこそ必要ではないか。広島の復興や平和都市であることに批判や非難を突き付けるだけで、よい方向に向かっていくとは言えない。

昨今、領土問題などで勇ましい対峙論や好戦的な主張が目立つ中、従来を平和を求める主張も掻き消されがちであるが、かつての被爆による子供や女性を含む多くの人たちの甚大な犠牲を経てようやくたどり着いた広島の復興の、いつでもその物語とその意味を伝え継いでいくことができるようにしておく必要がある。それこそが広島の原点であり、広島に来れば何か見聞・体験でき、あるいは広島から常に発信する何かを受け取れるようにするために、広島の都市空間、広島の各種施設、さらには広島の市民の考え方などは、「平和ボケ」とか、「ノー天気の平和」とか、「つけ込まれる平和」とかの批判を克服しつつ、ぶれないで、平和の象徴として築き上げた平和都市の揺るぎない理念を模索する存在でありたいものだ。

注) 本文は先日(11月10日)の広島における「平和ボケ」「核廃絶は無理」等の橋下談話以前に書いたもので、この種の発言が続出すると予想されるのである。

ひろしまのまちづくりの動き

○旧広島市民球場跡地委員会・第5回検討グループ会議が開かれた！

・これまでの動き

2011年10月に市民球場跡地の活用策を考える跡地委員会を立上げて1年が経過した。都市の中枢性、文化的な機能強化、回遊性、実現性等の視点で議論し、12年度末までに活用策を出す予定としている。これまで跡地委員会が5回開催され、相応しい機能として、【文化・芸術機能】、【緑地広場機能】、【スポーツ複合型機能】の3つに絞り込む。市が3案のイメージ図と概算事業費を作成し、次回の委員会で絞り込むこととなるのか？

・第5回検討グループ会議

11月6日、跡地委員会の検討グループ会議が開催された。市事務局で作成したイメージ図（たたき台）3案が提示され、併せて委員からサッカースタジアム案も提案された。今後、補完施設も含めた詳細なイメージ図を基に議論することとなる。

広島商工会議所から「旧広島市民球場跡地活用策の基本的な考え方について」の文面が提示され、市からの要請があれば、移転の是非も含めて検討するとある。



第5回検討グループ会議傍聴
(2012年11月6日)



中国新聞 (2012.11.7) 転載

コメント

ちょっと待て

旧市民球場の跡地活用は、平和公園から中央公園に繋がる広島市の都心地域としてこれからのまちづくりの中心課題を担う。この地域は、隣接する河川と併せて瀬戸内海を介して世界に広がる面積を擁している。この広がり、ニューヨークのセントラルパークや皇居と比較しても遜色のない世界的に誇れる都市空間である。広島市に考えられる都市機能を配分する方法で活用策を探ろうとする今の委員会方針(市・事務局方針)からは、正解は出てこない。

中国新聞が「発言／交差点」で取り上げる

9月14日朝刊の「意見募ります」は、①広島市をどんな都市にしたいと思いますか、②そのために球場跡地の活用プランをどう描きますか、③そしてアイデアを実現するために行政や市民がそれぞれ果たすべき役割は何だと考えますかと読者に問いかけた。23名と深山商工会議所会頭の意見が掲載されたが、どれも委員会の検討内容とはクロスされていない。特に①と③については、意見がほとんど出なかった。

そこでぶっきら棒な提案だが

66年前、ひろしまでは改めてまちづくりが始まり、市民の努力と情熱によって復興を遂げた。これからのまちの動きは、この上に立って被爆100年(西暦2045年)をも視野にいたれたものであるべきである。この時点では、市民と行政が協働し、世界に向けて発信し続けているはずである。

そのため、今この時点から、できることを提案したい。

●まちづくりの主体は、市民である

行政は、まちづくりの実体ではない。あくまでもまちづくりの事務局である。

行政は、このことを相互に認識できる状況を作ることが役割である。意識のある市民が参加できるシステムが必須となる。今、動いているひろしまのまちづくりの内容をより多くの市民に知らしめ、考える場を提供し、市民が実感をもってまちづくりに参加することが原点である。それを考えるための装置を球場跡地の活用プランに期待する。
(前岡智之)

○広島市景観シンポジウム「平和都市広島の景観のあり方」

- ・開催日 2012年10月27日（土）
- ・会場 広島平和記念資料館（東館）「メモリアルホール」
- ・参加者 250人（定員300人）

伊藤 滋氏（早稲田大学特命教授）の基調講演「平和都市広島の美しく品のある景観づくり」に引き続き、松井一實氏（広島市長）舟引敏明氏（国交省・景観課長）を加えて、コーディネーター森保洋之氏（広島工業大学教授）によるパネルディスカッションが行われた。



<印象に残った各氏の主な発言>

- ・先進国に仲間入りした今日、景観づくりは国家の品格・信用力に係る重要課題（伊藤）
- ・広島の個性的な景観づくりは、デルタ内6本の河川の活用だ。（伊藤）
- ・平和都市広島の象徴として、丹下氏提案の軸線を南北に延伸し、起点・終点にモニュメントを設置すること（伊藤）
- ・景観づくりは時間がかかる。身近なことを市民が継続的に取り組むことこそ重要（ゴミ清掃、窓辺花飾・花壇、放置自転車撤去など）（伊藤）
- ・広島市は「美しく品のある景観づくり」を目指している。「品のある景観」とは調和がとれていること。広島市は「原爆による廃墟からの都市復興」が評価され、「アジア都市景観賞」を昨年受賞した。（松井）
- ・景観法では“景観”の定義をしていない。景観は人の感性に係るので定義を避けた。景観づくりに際して、財産権の制限に法的根拠を付与することが最大の立法目的だ。（舟引）

コメント

「美しく品のある景観づくり」は個々人の感性に係り難しいテーマだ。伊藤氏の基調講演はユーモアも交えて具体的で解り易い。身近な醜い景観の映像を沢山紹介しながらの話は説得力があった。

会場からパネラーへの質問時間が全く取れなかったのは残念だ。そこで関係者に次の質問と提案をしたい。

- ① 住民と対立して遅延している、平和公園周辺の「景観地区」指定について今後の方針は？
- ② 平和都市広島の都市景観のシンボルは、他都市にはない丹下氏提案の軸線だ。図解をして「広島市総合計画」に明確な位置付けを提案する。
- ③ 景観法の制定は地方自治体の景観づくりに法的根拠と勇気を与えた。しかし、市街化調整区域内での公共施設などの立地は野放し、市街地では超高層建築が突然出現する。至る所で都市景観を台無しにしている。景観法の理念がザルにならないよう、都市計画法の見直が必要では？

景観シンポジウムは6回シリーズで、次回（第3回）は来年2月9日（土）西村幸夫氏（東京大学副学長）の基調講演「歴史・文化を生かした都市景観」が予定されている。皆さん是非参加してみてください。

（高東博視）

○昨年アイデアコンペの中から提案！

当面、昨年行った広島市中央公園アイデアコンペの提案作品の中から市民の多くが良いとした案を紹介していく。

・優秀賞作品番号2（タイトル「Peace Ring Park」）



上：ピースリング
右：マスタープラン



被爆100年後の将来の姿を自由な発想で求めた課題に対して、最も具体的で夢のある提案ではなかったかと思う。実現性を考えると二の足を踏みそうだが、理想像としては、コンセプトも、デザインも群を抜いており、第1次投票では一番人気であった。

丹下平和軸線上にオーバルパーク、ピースリング、グリーンアリーナ（建替え）、スタジアム、国際展示場等を配置し、各施設を人工地盤やペDESTリアンデッキで結ぶ。中国・四国の拠点として、一大メッセコンベンション及びエンターテイメントの地区を形成している。

広島現状を的確にとらえ、進化させるために長期的展望を持って、中央公園の周辺まで含むスケールの大きな提案は、広島を良くしたいという情熱が伝わってくる。

受賞者：堀 弘明氏のコメント

広島は初めて原爆が投下された都市という半面、復興を果たし中国地方の中核を担う都市という顔を持ちます。恒久平和の聖地として、また大阪福岡間で埋没することのないこの地方の盟主として、広島のまちづくりを考えると、この2点を外すことはできません。

□ほっとコーナー

三宅恭次

編集子より「何を書いても良い」とのオファーを受け「私の趣味遍歴」を書くこととする。

先日、会社の大先輩とゴルフ、お手合わせするのは10年振り？私は自他共に認めるヘボゴルファーではあるが、なにせ相手は77歳、ティーショットは勝つだろうと思っていたが、なんと各ホールとも約20ヤード置いて行かれた！！よく聞くと毎日1時間のウォーキングと5kgの鉄壺鈴のエクササイズを10分間やっているそうだ。

フラッシュバック風に趣味遍歴を述べると、先輩に連れて行かれたスタンドのママに勧められて始めた謡、これは正真正銘三日坊主。表のお茶、左点前はないということを理由にお客を務めるばかり。テニス、これはまあ結構続けたが上手くはならず、年2回の泊りこみ合宿を楽しみに…。スキー、10数年、毎年志賀高原行。山登り、これも屋久島、南アルプス等にも…しかし、今やいずれもやっていない。現在進行形は毎朝ジムでの40分ランニング、これでマックス体重65kgから現在58kgへ、体調も良い。そして、俳句、毎月例会を居酒屋で開く。この座の文芸は大変奥が深い！！初心者も初心者ではあるが嵌っている。最後に駄句をひとつ「老らくや 差しつ差されつ 秋の暮」、お粗末でした！

○紹介 まちづくり関連の団体とその動き

広島町の町を良くしようと日々努力している人たちに応援するために、まちづくりに寄与している団体等を紹介していきたい。

・アーキウォーク広島の紹介

アーキウォーク広島は、建築好きが集まった市民組織です。広島の建築の魅力を内外へ発信することで、まちの活性化へ貢献することを目指しています。具体的な活動は以下の通りです。

①建築公開イベントの開催

普段入れない建物を特別に公開いただき、見学するイベントです。昨年度は11箇所で開催イベントを実施し、特に8月の京橋会館見学会には延べ1400人が訪れ、大きな反響をよびました。

②建築ガイドブックの発行

2012年10月にガイドブック「アーキマップ広島」を出版しました。全国へ向けた情報発信を行うと同時に、本の販売により公益的活動に必要な経費をまかなうことも目的としています。

③セミナーの開催

美術館や公民館などとのコラボレーションによる一般向けセミナーを多数開催しています。

④情報発信

新聞連載、ラジオ出演、写真展開催など、様々な方法で広島の建築についての情報発信をしています。また、知られざる優れた建築を発掘することも活動の一環として行っています。

(アーキウォーク広島：ホームページ <http://www.oa-hiroshima.org/>)

広く市民に建築を理解してもらうことにより、広島町のまちを良くしていこうという「アーキウォーク広島」の活動にこれからも注目していきたい。

○読者からの投稿

昨年のアイデアコンペは一応終了ということで、本が閉じられたような印象を持ちます。私としては、もっと多くの人々に見てもらい、意見を募ることがこのコンペの基本的目的だと思います。

大学、公共施設、ショッピングモール等、無料で展示できる場を利用して、出来るだけ多くの人に見ていただき、新しいアイデアが生まれる「叩き台」としてコンペで集まったアイデアを活かしてほしい。

(石原滋)

これからも機会をとらえて、コンペの成果をPRしていきたい。(コンペ実行委員会)

□むすび

まだ馴染みが薄いですが、11月は公共建築月間である。多くの市民に利用され、親しまれるためには、施設を作る側と市民の建築への理解と愛情が欠かせない。愛される建築が増えれば、居心地の良い町になると思う。

(瀧口信二)



建築公開イベントの案内



京橋会館見学会の状況
(アーキウォーク広島のHPより)